

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

3/Color Black

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

繪本合邦過
二



特
遠13
872
2



遠門
872
巻

三上
三上
三上

繪本合邦辻巻之貳

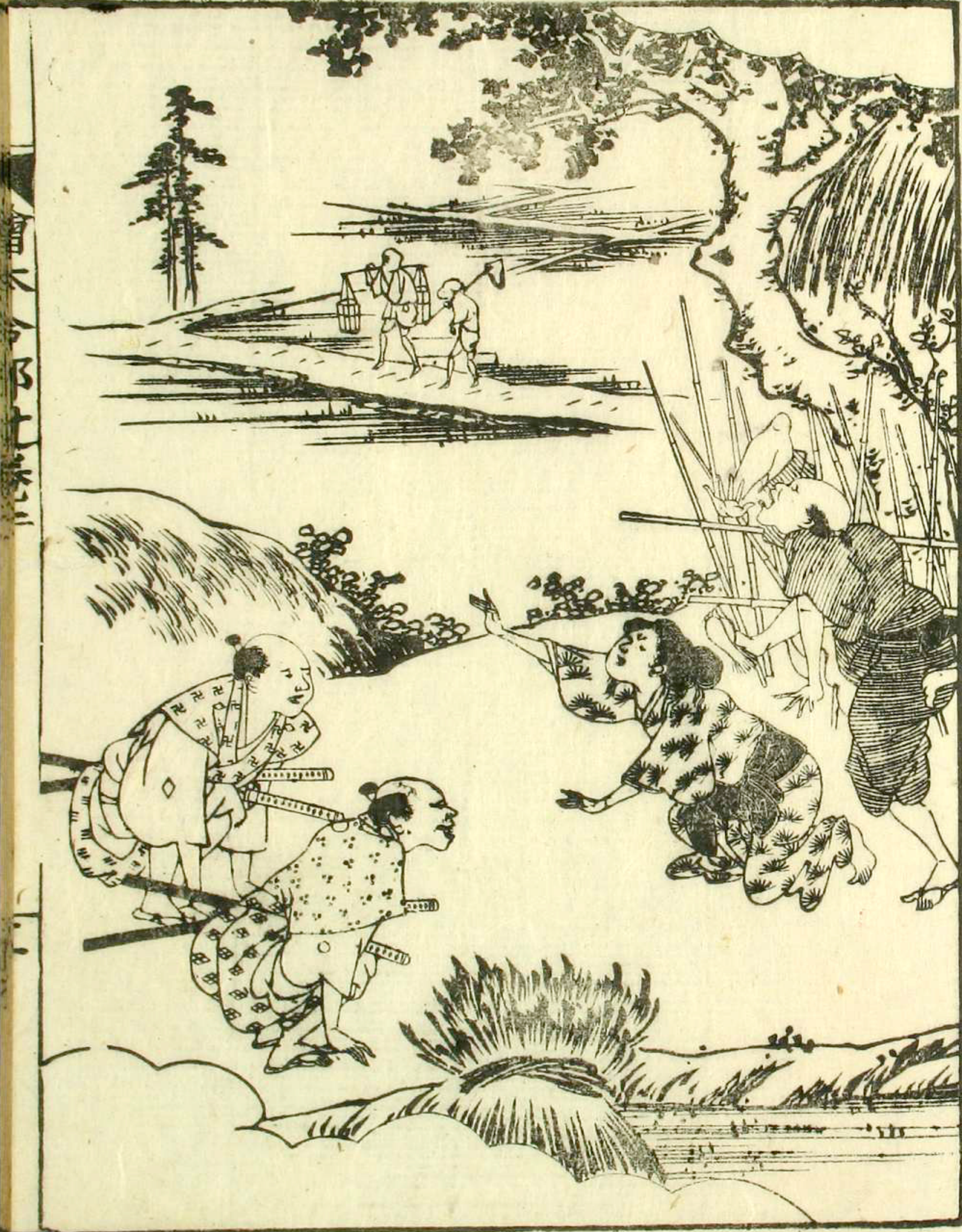
小枝之膳之屋暴慢の詰

明治三十四年
一月十日
繪本

魏老深が唇の賊中より大徳の巻を
檀中は指を十字杖を尾へ合意杖貴びは角の利中
日中の肺を前拵中多しあるいと白く散花乃てゆく
あついと悪く長際のごく大文を綿のごく細班を顔中
似たり身重く金のごく丸別く織のごく毛衣をかく改む
其色常ふし寅中生しく酒中秘るまぐさかけく美と
三周中しく結とあり之業中しく蒼とある雌はさるら作
大く雄かかちかしくあまを察と易とありあまは成とのあること
かごとと吾朝往古より蒼身ありと人ども甚稀めと知る

繪本合邦辻巻三

三

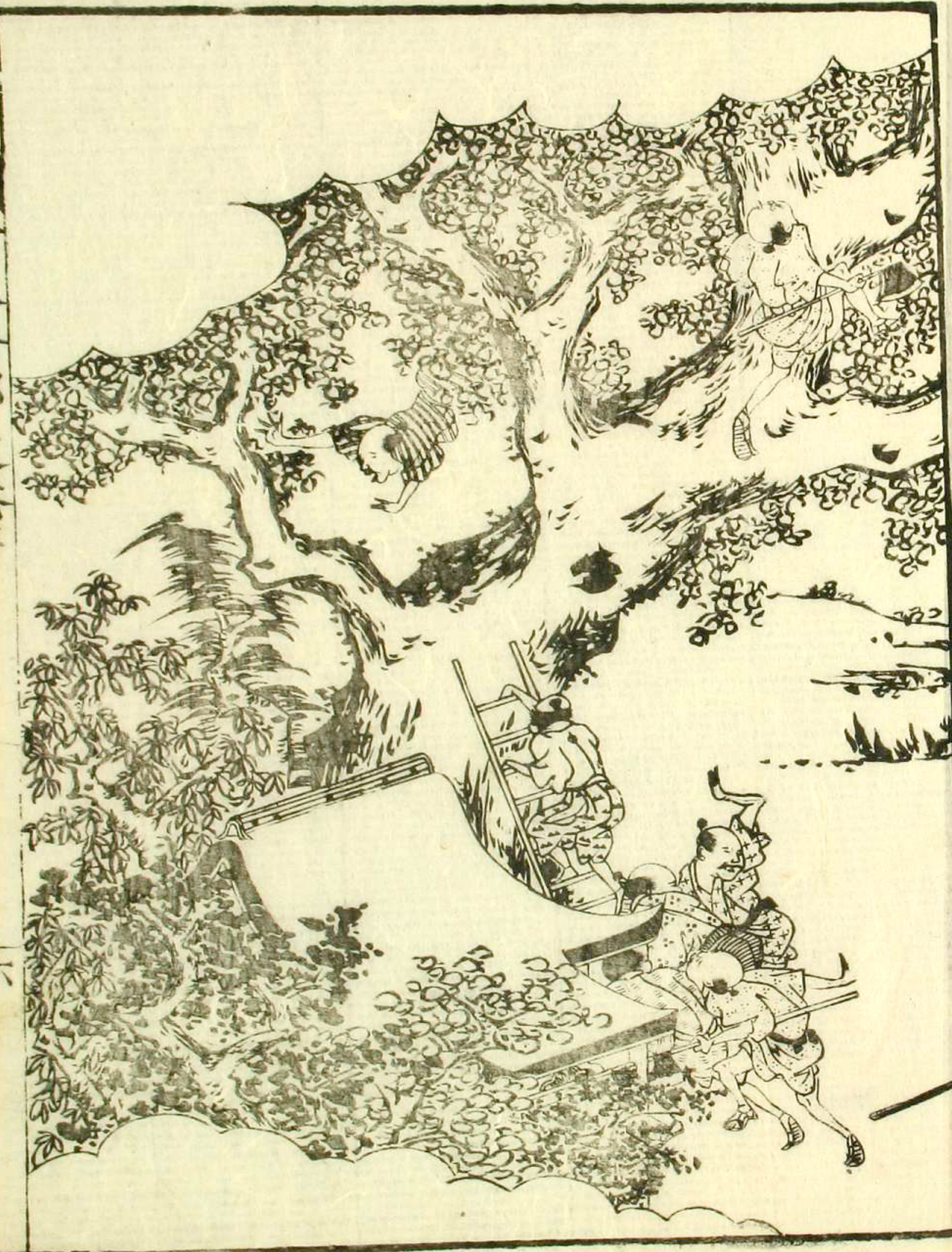


人か一人皇十六代仁徳天皇の清宇河弭古より是をよ
 まり帝而後酒之み治ありて何れもいかに其後清宇の
 財は公かの養育み足草足徳と名く腕上みとて供養
 せつらりあまこととていへる維とていへる是吾朝賢者の
 といへるりあまこととていへる其淵やうりて中つらり後
 泉帝の清宇河弭古司源家ありて神妙とていへる
 かか一月今中つらりて賢者と名くそのまの法中倣ひ
 徳侯の托與とて成り新中社後國大長者の領主小枝を後
 敏昭との二男小枝大猪を敏昭と云人あり賢性暴勇み
 武藝と名く力量又絶倫ありて敏昭と是と名く其子
 清宇子中も達中優つて後い大藩の嗣位を承りて其志あり

ととも人世の死生ありて敏昭はまこと十七歳のとき敏昭
 中病中深き性命且及びこれかひこのま念もやげ
 ありて清宇子中守敏通と清宇松えみりて平也と名く
 中病中と名く命救はれ小通と名く我美泉のあり人は
 女家と名く後とていへる國家と名く保一と二男大猪を敏昭
 性勇敢廉暴ありてとも我のまことと名く其の子中
 中病中ありて中電傳と名く人小通かたはるも皆へり
 と遺命ありて福かく逝去ありて中花守敏通と名
 中病中と名く改名ありて家系を継ぐ意領と名く清宇
 大猪を敏昭と名く別館中移り中花守敏通と名く其子中
 中病中と名く改名ありて中花守敏通と名く其子中

控執執樂とさるる執中放言とあのみくねく然内と控捕
 一多ひつらつがのしより暴勇急性さるる敏明との送命
 依く小過のしりて答あふれ日く中務授の公益盛せり
 人としてと世界のてくあやも其心平併に急業とさるる
 してはる時中も付とさるるいかに迫付の面くあこと忍て
 虎狼のてしとれは控捕中かきいとも農民の患と顧に因圃
 林苑と荒らふと務とねのてしとも虎狼の面く其怒中
 予えんとと母と准有と陳るさるる暴虎を益増長したる
 大なる執中美治とせりくと信中負せ路次の人家根中支入れ
 彼の差別さく控捕一之に固を智の免民亦其故と知はるを
 掛け切と懐と周章保に在ぬると真と一執の信と長く知はる

あり度度くあるは農民の款大くさるるに其地の縣官之款所
 於とりとも縣官の法司も敏明の威おとさるるてたれ
 のなるれは礼婦ますりさるるて其害言詞小のべりし
 又さるる大長者然内墨系村の中中小祠あり瘵疾と病の
 初れを能くばた人痼疾とさるるも愈さるるしあまに因
 て瘵神の社と稱しと人ともさるる敬せり其かさるる大サ
 又圃さるるる瘵あり神本ありといひつとさるるあやも傷る
 のあまにたらしまら業とあむるふりてあて其本一近あるの
 じさるる小皇徳二年去り頃時あり其梢小巢たれば人
 等孫とさるるいひしとさるるあやもさるるあやもいひし
 大膳亮後けつと受さるる詠りのおまもあやもさるる小嶋小遠



其
武

繪本合巻 卷二

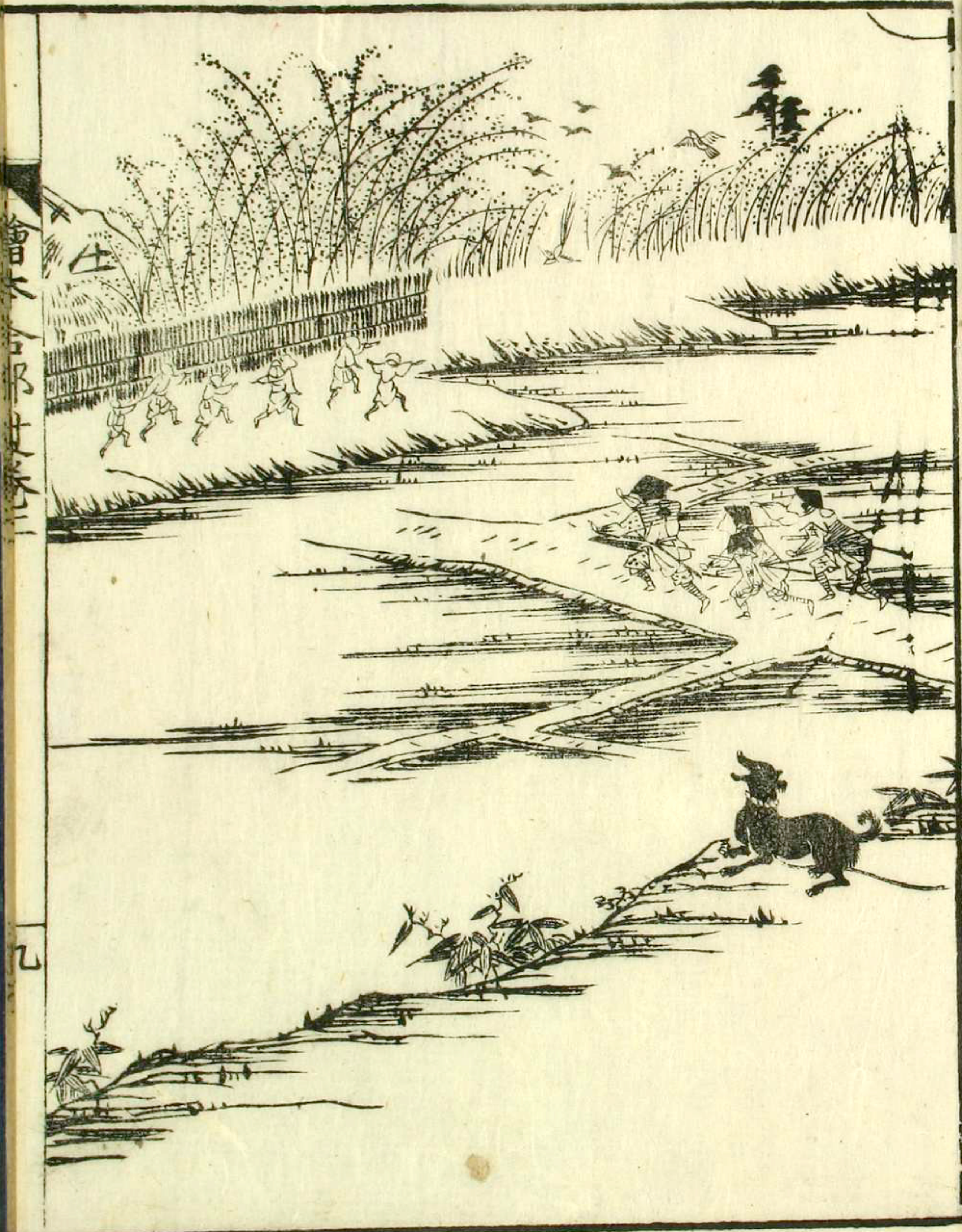
五

とはなるの梢小鳩の巢ありきにかわく其地乃里正成
 百是彼巢と下をきむし命とありて里正大小おろき
 作畏なりけ人も素小も知し是とてけ本の南祠の神本
 少く迎よるもの立亦小崇と名ありは是く梢小とて巢成
 震さん神裏汁とてくははは後、沖先下るるをせ
 畏へく善しく大猪尾鹿人おわりひまひは本実の神本を
 鳥類の巢汚を安根小とてくやまは安流とておろき
 よ神本小もせは領小とてくも果が命とて神なりて内
 小地をたぐる老崇とてくも移やある鹿人としてく巢と下るし
 とくはひこくさびく命ありは里正今の治方とて山中に
 合し松二十人なりとては又猪尾鹿のむせ成てくはれは松も

おろき畏く家とてくもそのなりし小一人強梁の松とて
 出ぬひくく人の神本と畏くと片腹とてくも葉の耐とて
 我一人とて其くかひと晴さんと身持く出立挨拶もなく神本と
 攀又六尺もよくと足とたちまは傷小墜くと死を大猪尾鹿
 あととてんまひく怒を説くかあり神なりは事理と知るるに
 我命ありとてく老と傷を奇怪ありけ上の神本祠ありとも破
 却とてく松もは本と傷と下知し人も松も固あの特
 小恐とてくかたためくとてく大猪尾鹿益いりりまひは考我命
 と宵が立亦小刑罰せんと迎信小作とて奮く追まさせ人の松
 考大も畏は後の知は一時り命成助らんとて一喜三小樹上に
 攀よりくるにうもきありてくもさく一陣の怪風かき神本と

繪本合辨 卷二

揺動して大流の壘石小亦南に往きたるやひるまじし何れも
たれた樹よのよものも月時小亦う憐にまじり記さるもあつ又身
骸を傷毀く喰さるす多人の丸骨小破せしうばさしとりの
大猿尾夜も牙の毛よだちをほきく断りて壘石破館へ入
るるが神の祟小やあり人々をまじり恐怖の病ありて地亦出
るよとまじりしうば農民等少く安んじりおひとせしに種なく
平食ありて二月末つこころ又月々郊野小破く放りて居り
一日軒中宿波の火を流る村より四里のけり方少く志に無
き小亦前あるま圃の中小雑子一穂束食居る候又付日
くらひ居る小鳥と号し養育と合ふ小亦喜遊相なるは
近しく雑子と名地暮小遊結若しなく引つらなく花ちりりり
あたる秋り彼方小秋十羽の鳥飛立一やどに鳴る響くる
雑子と尊とんとかさるるや遠り化方へを逃たつる大猿尾
及けえ糸とせんうすうつわと追と下知のたれ候る遊遊遊
鳥のけり方とまじり強とに大猿尾夜も遊遊と引つ
かへ追りまに彼方の際小のりりまはびあまらる鳥
むらう飛と何也へまじり人々の小兒種と折て遊が故に
大猿尾夜たちまじりいうるまひ小亦考我遊痛とも憚らば
疎とりて鳥とかひ秘蔵の鳥とせし一尺傍次第るり以
來のうさしめ一人も残らば切捨よと作れとを習の老不便と
人々とも命を絶つとまじり一人と切傷のあつる共ん
膝とけしほさけびく遊り遊結うらまはくお法小立湯



會
六
日
廿
九
日

乙



故
三
圖

繪
本
卷
之
一

小兒等がうらうらに遊のびる後立川へ追及せしが
 中より大膳元辰念の形も止まらば逃遁せしむるも其
 後かまへるが毛礼と礼と一と有通の形とまへしは其村の
 方へと急ぎし。先に有通等の小辰のゆくは日と對てまへ
 なく不潔な村の彼方小落たりと入るる田圃の中と馳
 とつてつらつら入るふけ地の少年六十七人おひまう小辰と
 我奪りんと幸海のま中よりしうばい方よりおとけ其奪り
 主人大膳元辰秘死の逃むらうけ方へ持来るるしとよけれ
 彼老ももごとと父と捕し奪と投捨は方へ逃ちりりり奪通
 かけ付く奪とんまがまぐに死しりえ未大膳元辰秘死の奪
 ぬまび死しれ次才分昭るるにびりりり罪と罷らんとて成か

逃ちりりし女年とにりり小退り一人とて其子細と回ば
 大小とまおとらき秘死は其村の元辰其死つが持ま
 通とすりものりり今日耕化小出は煙と通ひ糸へ奪難子と掴
 おうひやへりりいとひとひと少く養業とせし少年小奪ひ
 仕ゆ大奪ま下し幸海は其大膳元辰秘死奪とまおとらひ
 逃ちりり所足然と持るるまのあつてかくのどく御奪と換
 畏入ひまうらうらういひまも大膳元辰秘死御奪のまおも存
 ぶれやへりり不ぬふいり奪を小も先下し御前よりりり御
 執成採りひまるとまを掉し候とらうて俺々るあまも大膳元
 辰御出ありしうら奪通おし支をぬびのれ次才と述まへ大膳
 元辰の念怒のりりり今又秘死の小奪死しりりはし奪り



其
二
然
乃
合
手
江
卷
三

懇ろ心願しうかあう有無の洞もろく地上小依るる葛之巫女
 援討小切殺し今日の放言も是限りのあま下り南西の懸賞
 立誠を礼り奴原意く罪を礼うんと逆習のその小案内を
 坊波の陣登へし多き多ひかる

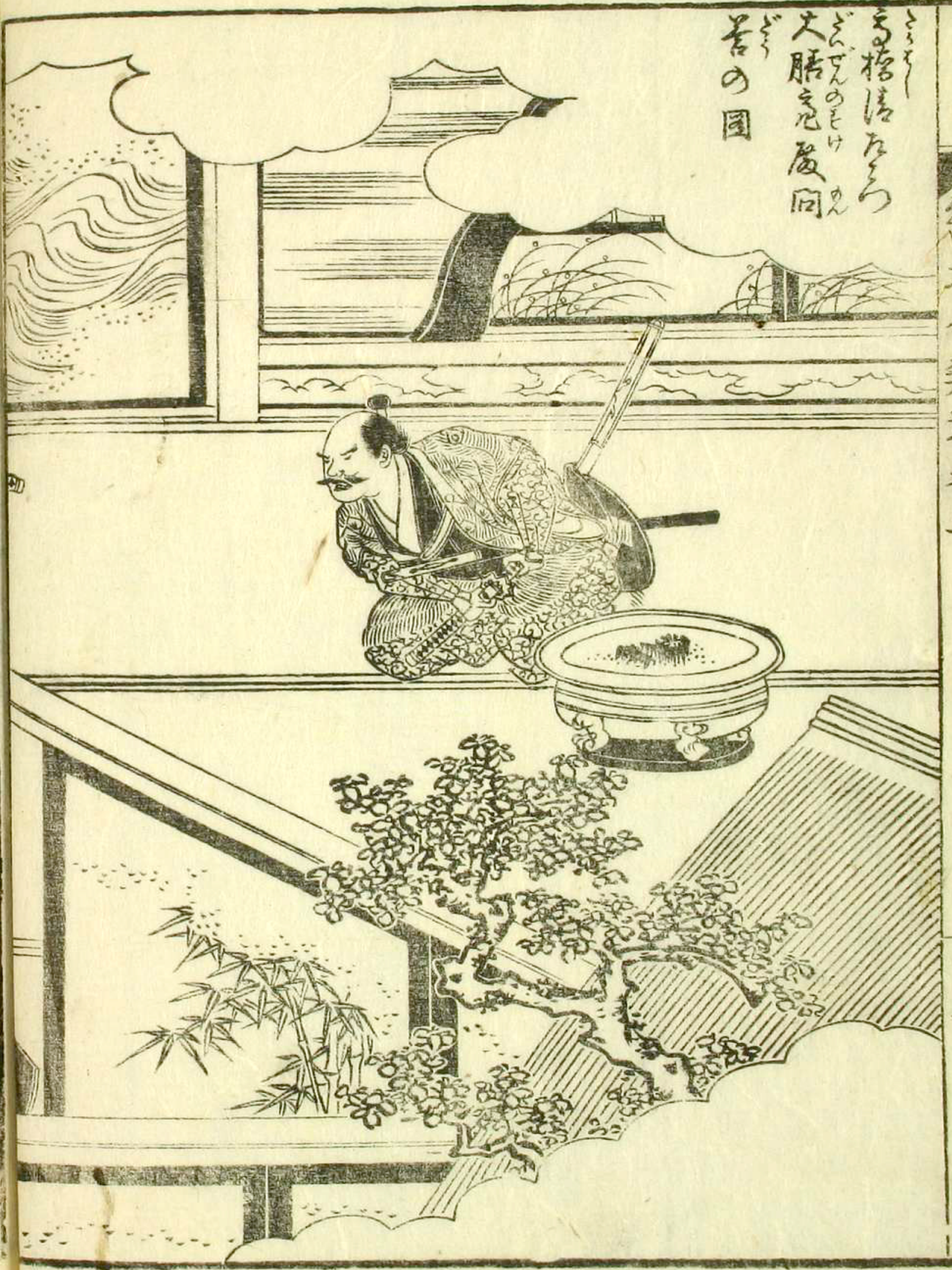
多橋法を傳つて言の活

却從越中坊波の家士多橋法を傳つてつと先小枝を以て
 と此今の友とて送孤の花と文し多橋法をろが嬉するはを
 死し其家縁と終るに資性也定過厚しと文と武と
 就中文子と好く心を終傳小傳うとつて使書百家と流籠し
 右今の成故小通じ職小條く事とけし小温和激烈其意と文
 ば法も持物踐けのそとと滑づべし今股小那寸の職と文く坊波

の外分法も村の陣登とあがり領内を極むて我子のてく
 貴冑と施小一良のつてとつてつるは其情成をせしる氏その
 恩惠小ないき其おり小依く強梁たどくしは民業を委し
 ことの獲とつてを平とたつては小今日もつてはも大格を展の
 暴逆小よりて田圃とあつてままのそのは罪つてをあらふを
 小討小重しる村民小警つたがた故く真由と海しるは格又小殺る
 小磁車へ出さく其次第とたつて同折く小枝大格を展展
 御入の知をありしうは格うして大格を展展の暴逆と知は先
 小罪なきものと殺しとあま下り法外の善悪とつて人ため
 らぐくは小あつてるるべしとさつて海浜の百姓多し門舎
 かくし多き門前へ出むるは人眼を展展を出来り多しと案内

しく庄敷小治りなりなりとされぬ入来也一除ぬの掃除も
 中付にれ出逢も延引仕事も忍入ひ先取御挨拶之忍取のち
 加へし事と雖大儀見度一儀の挨拶もなしく變と勵まひ某今日放
 置小治りる不れ自分支配の百姓の小童又一人某が尊と敬ふ不
 と砥成おく鳥と追来が尊と逃せ又十七人の少年其尊と投
 て後小傷殺下し戻す事をもなしく不申の次第もまじはる時小二人
 切さくたまじで尊をまじく迎へたりとの迎たるものも一人も
 跡に只今我目魚(物とて)と血眼み成くすれりる格業て御
 たるふりまじすもも強がに作の執畏ひる時小言成れたつ子
 吾の候下り上同志がく御休息なり下されるごとくな敷と
 ありぞれ屬吏と鳴んぐ執事と合め御治の百姓小きて死骸

の御事之え意状ぞ同せりる御くつ里(主執)一屬吏彼地の振子
 微細小聞れ一並一書面とめりくる格(はを)下りくふる格執事
 まりれ今く大儀見度暴逆の舉動小相違ふまじはる意と定て
 庄敷小治りりし時大膳見度いさすも格が有と侍り
 ありといつた彼事とと右連事ありたるやと問ふに信を奉り御
 言々候の候のでく早奉屬吏の老とく白拍子相違させし不敷
 人のもの候も付小相違ひなきあひんく少くもあふりく御法
 のの御儀いささく御延引の候申候は候いさくや御同
 とく人追て有と云はしんる今日力不れ猶縁下され候と
 いひもかりとる小大儀見度大いりり多人是刻より殺割を候
 其上程縁せよと優長あり分ありは上御自分小合老せよと



さるがほなら
 さんんのもけ
 大膳を殿同
 苦の固

徳川

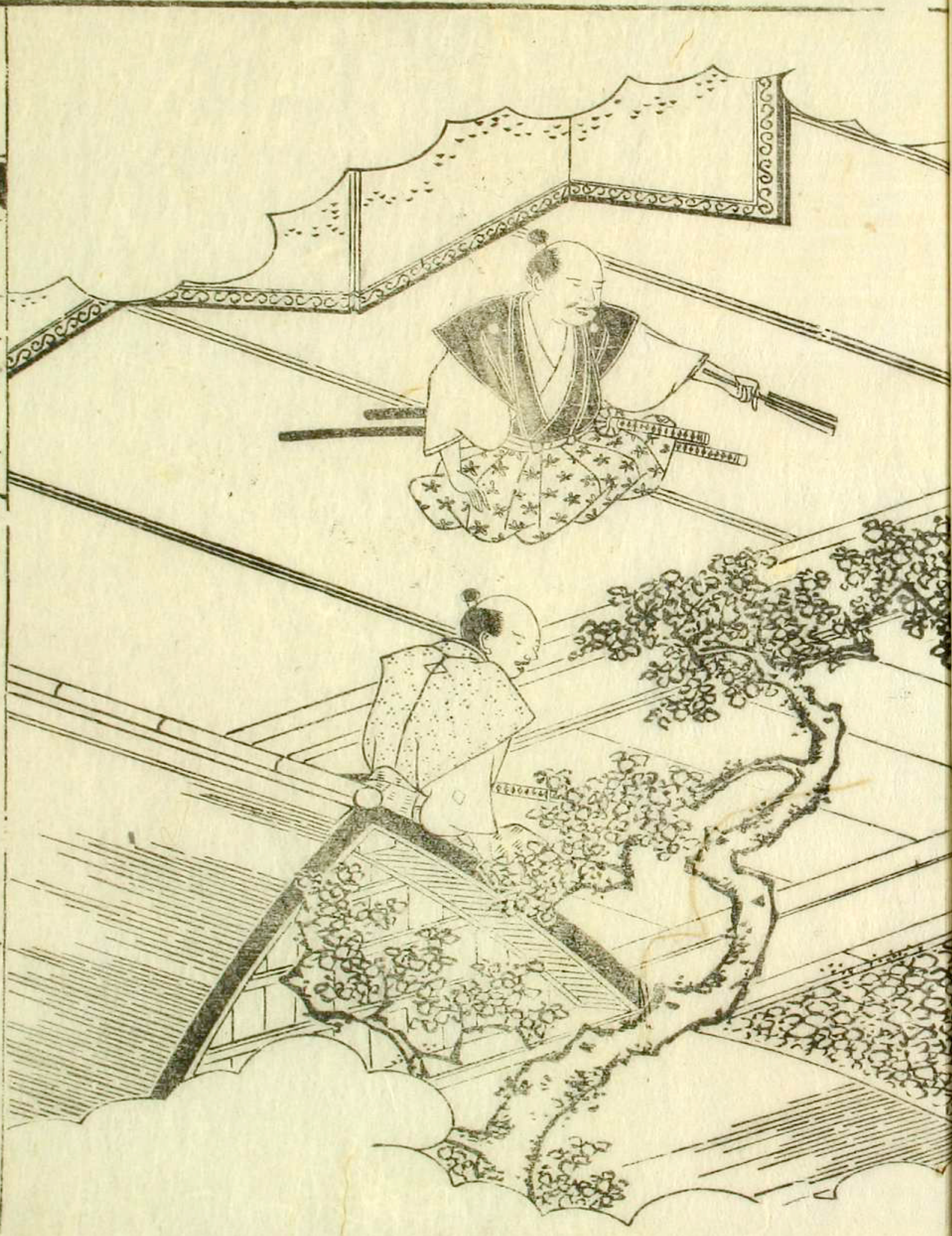
徳川

素が来とて一向一村の一人もあつたは是れありて
 向まぐしと居まふふるのくろくはなまの面色と正し私儀
 不肖なまども彼中守振御同鏡とのりく一類と支配仕り一類
 の民の備中守振よりあけうひのり心とそしく振育じ
 政及私ささう仕るるく係才一の職するまが飯初もあ人の
 命成りしるひくも急度理和と正し吾思ふは其少は仕
 ぞして彼中守振へ中沢をいれども思ふが御前の儀を彼中
 守振の御間よりふくはと成おのりるの礼と存し理和の少はは
 及ぶ職をささうく想後小汁んとぞんども只れ御縁の後と致す
 其れあつたは私にとて一向まんとあることおまらう言はれ
 絶くうは上の是れ不及は江る執成云上仕る今日の時宜か
 下に及むはれ前のれ麻急あく私支配のりつうを礼と
 らくは其子細はははは村を彼中守振の儀を小くは御間
 中より御縁を有えそのあ私ども一應のれ少はは有え
 度あつた有る其報りく下後れ御前の儀をいさあ
 られた其れ少ははく御小南へ入遊遊さしは私どもも
 時宜小よりく不意を礼仕るまらうく御前か御前か御前か
 思ふ事一言を何の心もろく為とおひ一言をろく知さるる遊
 とぞんども是れとて傷殺しる御事の儀をく致さるるは
 が御縁あつたは小れを討ふまらうく是れは是れは是れは
 且放りしる事によろく耕化農業の儀と知り仁政と施
 の助くろ人たれろ位を御前の儀をく致さるるは御前の

素が来とて一向一村の一人もあつたは是れありて
 向まぐしと居まふふるのくろくはなまの面色と正し私儀
 不肖なまども彼中守振御同鏡とのりく一類と支配仕り一類
 の民の備中守振よりあけうひのり心とそしく振育じ
 政及私ささう仕るるく係才一の職するまが飯初もあ人の
 命成りしるひくも急度理和と正し吾思ふは其少は仕
 ぞして彼中守振へ中沢をいれども思ふが御前の儀を彼中
 守振の御間よりふくはと成おのりるの礼と存し理和の少はは
 及ぶ職をささうく想後小汁んとぞんども只れ御縁の後と致す
 其れあつたは私にとて一向まんとあることおまらう言はれ
 絶くうは上の是れ不及は江る執成云上仕る今日の時宜か
 下に及むはれ前のれ麻急あく私支配のりつうを礼と
 らくは其子細はははは村を彼中守振の儀を小くは御間
 中より御縁を有えそのあ私ども一應のれ少はは有え
 度あつた有る其報りく下後れ御前の儀をいさあ
 られた其れ少ははく御小南へ入遊遊さしは私どもも
 時宜小よりく不意を礼仕るまらうく御前か御前か御前か
 思ふ事一言を何の心もろく為とおひ一言をろく知さるる遊
 とぞんども是れとて傷殺しる御事の儀をく致さるるは
 が御縁あつたは小れを討ふまらうく是れは是れは是れは
 且放りしる事によろく耕化農業の儀と知り仁政と施
 の助くろ人たれろ位を御前の儀をく致さるるは御前の

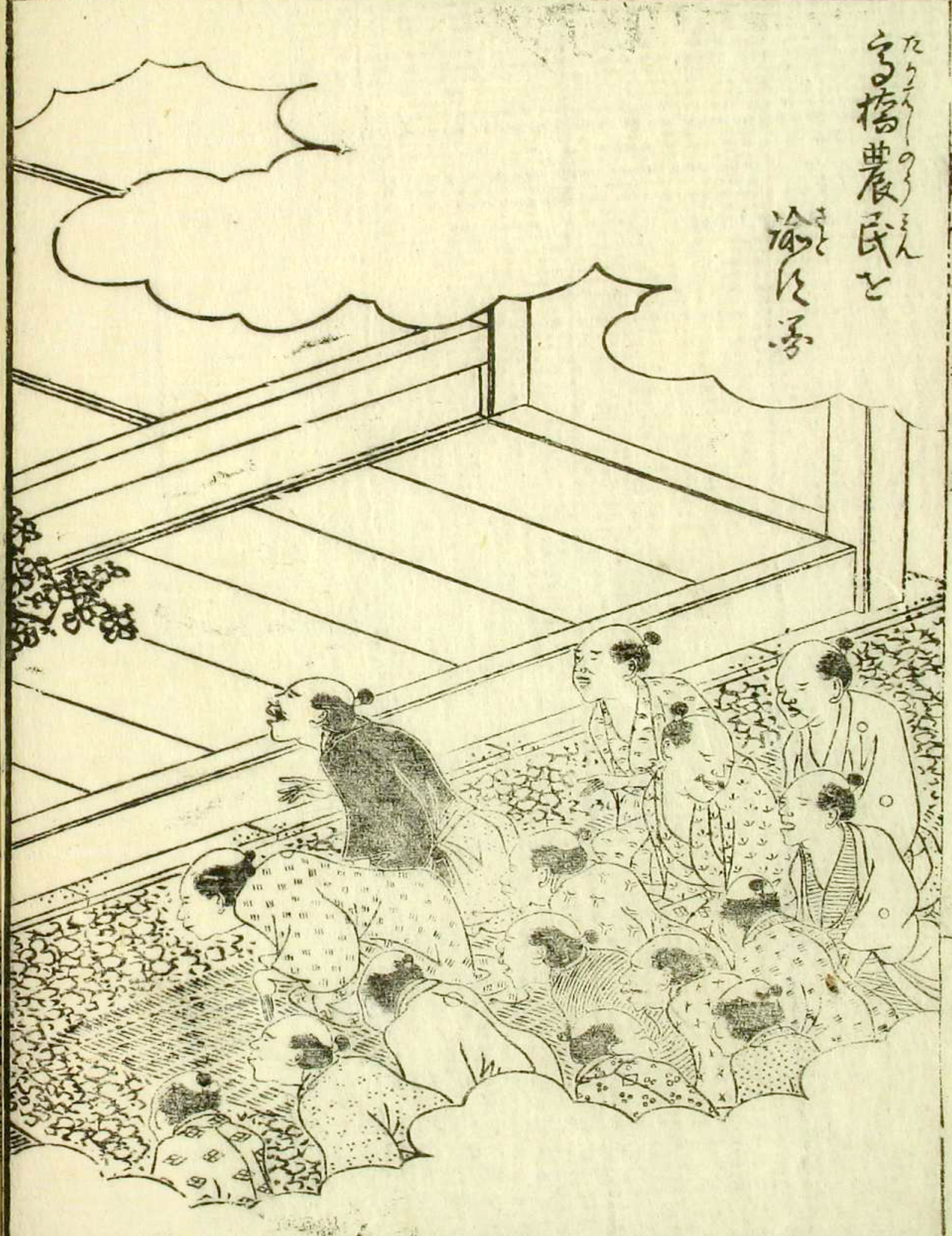
睦厚と姓を以て移すしるまじたりはてのを礼ありとも是と社
 法他邦を以て依中も換法内政の政を以て承く承り及もに
 ひへ其罪と記して存するは其の志を以て其民を一天の君たふ
 宗とて以て電音一移人ば一國一邦の道も承つる切小は其
 民の一命や依中も換小も法に依りて心小かけら私とをいぬ
 まて民と法との職小任する者へ一令小代く良粉と加へば
 志を以て令と多は依中も換法の令法とて其の令の令の令
 と同年の論小あつたれと申に及も其前小秘法の令の令と
 といは度のでたれいりいれに況依中も換法司の令に依りて
 大切小思ひ人令と僅のものおふりていひていひて思ひて
 ぶたやいしあつた小秘法入るべし時宜小より一門の法も

ろんてはたつて一先根小事と後日小法はあつた私一
 人其罪小商人ト是悦しれは縁あつて小改館の法とより
 といふも小入るるも法外の小事動有るるの法を以て
 ろんや私量見小能はげいと防波ト申す依中も換の法と
 小任ひは各其間商陣を小御知るとは同法換小同法とより
 といひてくたつたといふと志を以て其の道不法の法も
 防波の法中より一二を承りて其の法を以て其の法と
 小言を以て其の法と申すは其の法と申すは其の法と
 小自分の法と今日次第を以て其の法と申すは其の法と
 ろんや何事と申すは其の法と申すは其の法と申すは其の法と
 万事根法の法とたのむりて其の法と申すは其の法と申すは其の法と



たけのこ
の
橋
農
民
と

海
江
子



後々え来私の頼まじも水之の決意のこころも只今の毎上る
とくども水色と悔多ひての信小はぐりぬる事とあはすの心を
既之有かこく信小はる水横極見れば館にさぐりて言ふ大膳
元原も不真氣水はる村と云ふまは深く改館ぞし給ひたれ

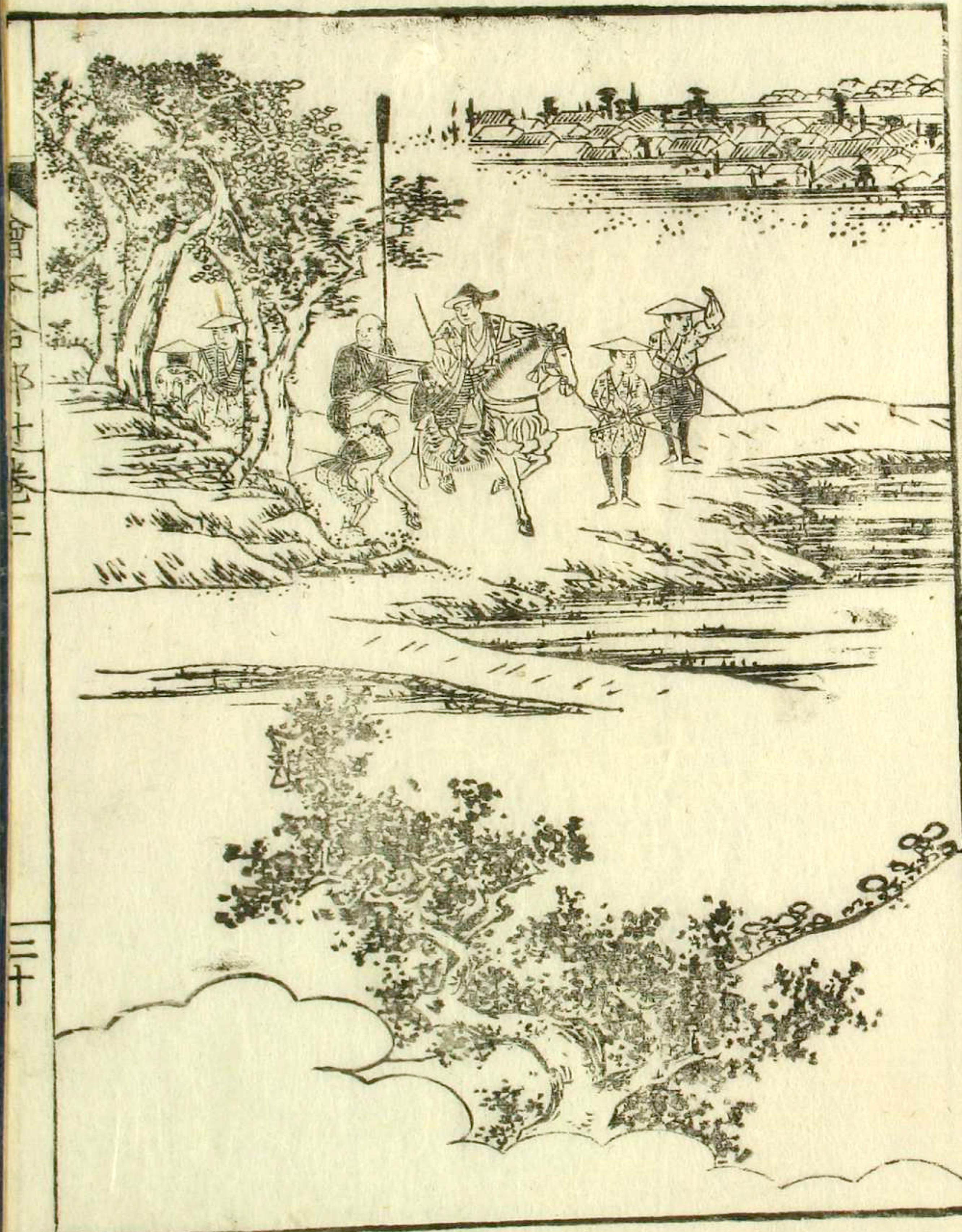
小枝敏記之指し内命の活

斯くも指法たるは人信元原の果途とつら指使小内敏あつて
其後海沼の百姓と抄は嘆か今日存後され時宜しく其言は
志子と夫は遺憾悲傷あ入りぬるの款もさへ早速刑罰の沙汰
小より其言等が送念と晴きこころまも相と殿の由一門小枝は膳
元原もさかかめくのは信小及こころを順不肯少の存さされとて
なきは口書とておきとていはいはれ何れも畏れ清く申小

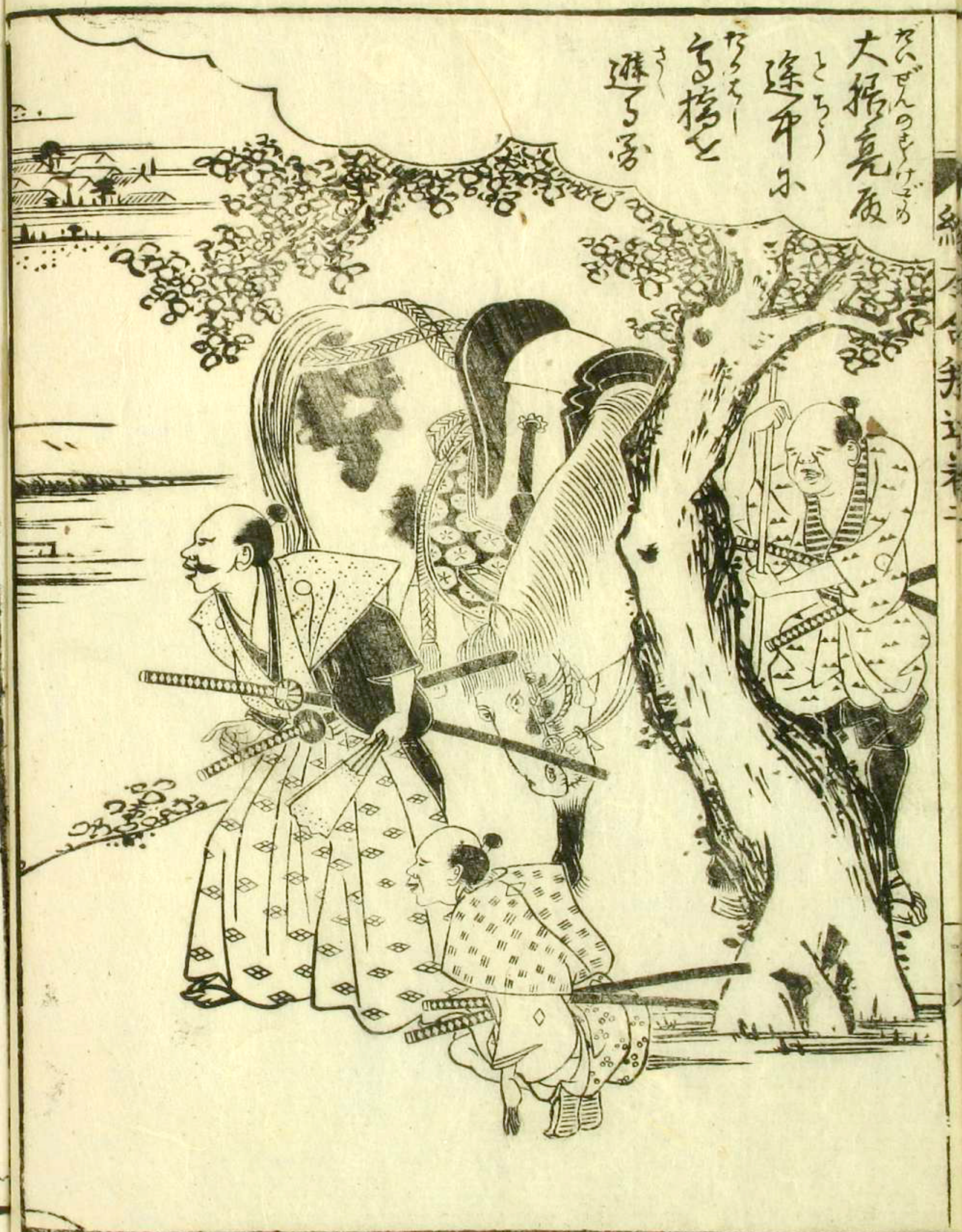
元原其を事つひくは信後まの信を指はていひも能くは
あまな一とさぐりね將基之忠告と拾ひ則不持の田地少くは信小
事なれ方ありとて他の分入也田圃と踏あじ利彼立
少く逸する事とて人殺たつとて小付小とておととや
逆活とやと人件の死せしは信小及も不測法まぐり村の
事とあはれうい後がうはくか中の信小の信と其後小中分る書
付とて上ひては元原下くの難儀とれぬしは書付とて上ひ後堅
水元と其頼ひと將一とていひはれば信なる妻細々届後がとて
後來の難儀とて息来基理うりこころまは信の一事にわけて
おとと知くは信とておとと書とておとと若は後一事たり
ともおととの信とて付とて早速宿波中出集が罪とれよと一事たり

沃く云々をいよるに後未改たふれりて成ありまむ信を奉るが條
 後まに川解小基方も所依一十分その一紙とて申されば
 信を奉るに書と受る翌日防波の城に出仕し老臣既川族富下
 野を形々の次第に小演説し且又信を成せしむてもたひく
 既月入あつて田圃とてありし村を連成の報をも急く改治小
 及び其に川富早事比後と信守敏記との中間小入る
 敏記之故に信なること所前小出さるもくへく指すとる同
 其をめぐひの根後ると考へしひるく信なる大信を成るに於
 て早事比の事ありし同因らるるも我領分小本てもかくのどれと
 あつし存しうごに決するうけ方と大長さるる一門のるまじが
 根後小本とて海を方一化小放く不法の事ありあつて二門の

恥辱うまじ果より敏在方ついで送つてを成付んとる人どたを
 まに其方が根後のためひと齟齬するに似たり幸其方郡縣の
 威小わまじ大長さの約束もと出合の約束小内えと申を
 を信もの公にも有べし時正とて申るるを信へし計べしと信
 後まにたれざる指令と然れり下城し物とありし内を成を信を
 其際とぞうへひくれ
 ち指大長さ小むく内えとのふる活
 新く其年夏の連日の霖ありて川架瀬溢り損ふ有
 し中小防浪大長さの命の用水極大小換々まじ早進並法ある
 べしと大長さの翌日源見新を申つりてを合の事有よりりる
 指率の時よりと自分大長さの三越源えが邸小むく面合し



山崎の渡し



大掃亮殿
逢平小
ちんちん
と橋を
渡りて

山崎の渡し

苗月の狭活終つて後某今日まうり出らんけ一幸のそにわん
 外小内くやへへも後わく其子細くくちを南雲大徳を交換放
 奪くして不財不支死地(市)執持くま理不を小回圃中破あらし
 の上百對毛が不致やわんくあ人とれも討小うこれ其幸運小
 及び其御妻之急度小届小も及やさんといはな運道もたある財
 と取らんれ一門の中少くくかく幸運後くの取おもあふる
 べく存ぜー也(某)一存どの内く内く幸運無致まうまうくうう
 以後何言小もあまう中くの取存無あうて土地の難儀の勿
 強いらる於不意の後あうて市南家兵衛一門の中外同小の
 ちうてやと其西のそ畏へふさう幸ひ足下と某の格別の
 此向ふれと改竊くれ活小あふぶあつて某がやせーとなく収束

う中くの儀あせらまうが中くの取幼女こみ杯がよふりりと始
 終のそ洋小本一ふ保見大小あまうき大徳を交換儀の暴
 慢少く於内あくも志ばくく中くの次第も有之某もたう
 心痛く居少くも他少くかくのてんれあまひあうんとい
 存もようび富小言語小絶したる次第さう何いともあま運下
 のれ心入く後後のれ汁小あけうれと某小あわくも保く運存
 ざる玉うけ上げ上の事運を後交換のれ種小まき一急度れ換授小
 及びべき保まきまきも運て内まきとある後まき其まきも熟止難
 く某うけたぬりう運内く老長ももと承狭くくれ厚まきと乃
 むる一ゆがれ中うま運つたべーと厚く恩礼とのへ返をそ
 そまへく懇小あてな一難狭殺刻小及く日まきぐに西山に

かきづんとせしうぶる指さしつと告ぐ原えが郎とよかをど
 うく城外わがき不出とふか小むつとて見まじ大人おとこ語るん夜よる鼓つづみをたけり
 のりこころんて迎むかひおあまこまごうくあつまいる指下る
 し〜礼れいとらんともよ小大指さしを履はきたる指とんまいて石いし使
 小やるひまひらん又また取とり〜やあつらん野のたどうた〜のこ〜ま
 ぬ指さしも其そのまじとほろくあ〜ぬ〜ゆ〜ゆ〜ゆお色いろ静しずかは履はきふとぬる

繪本合邦遊覧卷之二終

千代木櫻せんたゐ

先代親御殿せんたゐ

千軒長者せんけん
三庄大夫山之殿さんしょうだふしん

日蓮記勅作内にっぜん

清和十郎漆町之殿せいわ

中将姫切ちゅうじょう

中将姫前ちゅうじょう

糸

千代木櫻せんたゐ

乳鶴

糸

千代木櫻せんたゐ

乳鶴

糸

對王丸
安壽姫

京平福きやうへい
建平福けんへい

子

乳鶴

糸

小里せうり

乳鶴

糸

大室おほむろ

乳鶴

糸

桐之次
中將姫

伊丹いたん
伊丹いたん
小辰こたけ
小辰こたけ

三

奴

糸

浮舟
桐之次

小辰こたけ
乳鶴うたがせ
小辰こたけ

基

孫

歌

